

インド、1年半振りの利下げ

ポイント① 予想外の政策金利引き下げ

2月7日、インドの中央銀行であるRBI(インド準備銀行)は、金融政策委員会において政策金利であるレポレート¹⁾を6.50%から6.25%に引き下げました。利下げは2017年8月以来、約1年半ぶりです。

今回の金融政策委員会は、昨年12月のダスRBI新総裁就任後、初めてのものです。金融市場では、政策金利据え置き予想が大半でしたので、利下げはややサプライズとなりました。利下げ発表後、インドの株式指数は若干上昇しました。ただ、欧州株価が景気鈍化懸念などから下げたことから、インド株は7日の終値では前日比小動きに留まりました。

ポイント② インフレ率低下で利下げ余地

今回の利下げは、食料品やエネルギー価格の下落や、インドの通貨ルピーが米ドルに対して概ね下げ止まったことなどから、図1が示すように、インドの消費者物価インフレ率が低下したことに対応したものと考えられます。

米国の利上げ観測後退により、ルピーが米ドルに対して大きく下落する可能性は低下したようです。このため、インドのインフレ率は低水準で安定化することが見込まれます。利下げと同時に、RBIは当面の金融政策のスタンスの姿勢を「引き締め」から「中立」にすることも発表しており、追加利下げに動く余地があると見られます。

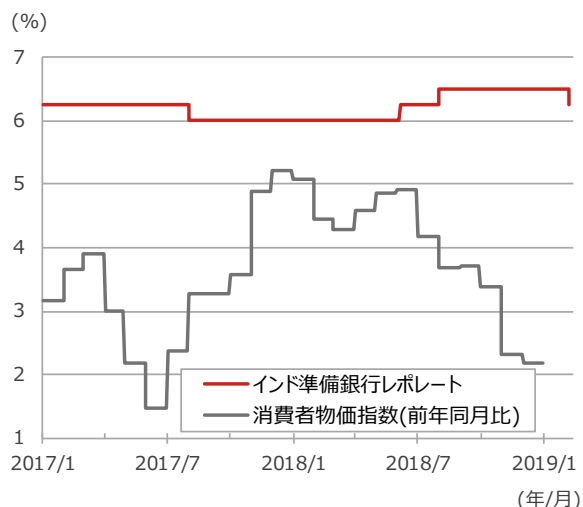
ポイント③ 景気下支えを意識

インドの景気は概ね堅調に推移しています。1月に発表されたIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しのアップデートでは、昨年10月時点の見通しと比べて、2019年のインドの経済成長率見通しは7.4%から7.5%へ上方修正されました。ただ、世界経済成長率見通しは3.7%から3.5%に下方修正されています。

インド政府、RBIとしては、財政刺激策や金融緩和策により、世界経済減速の影響がインドに及ぶのを極力抑えることに注力する姿勢のようです。

図1：インドの政策金利と消費者物価指数

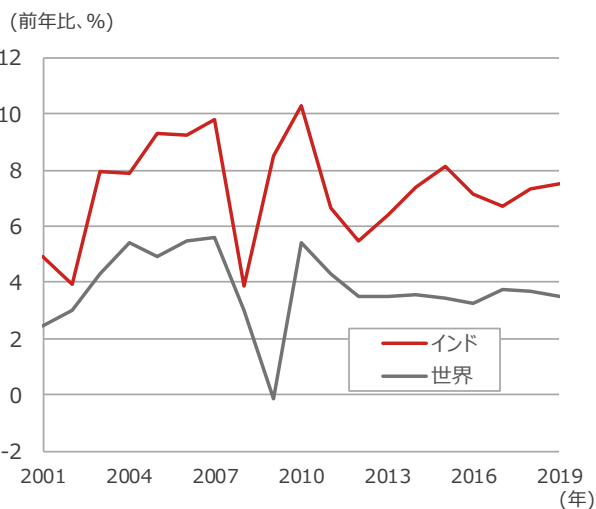
期間：レポレート 2017年1月2日～2019年2月7日、日次
消費者物価指数 2017年1月～2018年12月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：世界とインドの経済成長率

期間：2001年～2019年、年次



(注) 2018、2019年はIMFによる見通し

(出所) IMF World Economic Outlookより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

2月12日	インド消費者物価指数(1月)
2月28日	インドGDP(国内総生産、10-12月期、2019年予想値)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。